The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	オーストラリアにおける地方の歴史博物館の変遷 ：『ピゴット報告書』作成に関わるコンサルタント・レポートを土台に
Author(s)	藤川, 隆男
Citation	待兼山論叢. 史学篇. 2015, 49, p. 1-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61295
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

オーストラリアにおける地方の歴史博物館の変遷

――『ピゴット報告書』作成に関わるコンサルタント・レポートを土台に――

藤川　隆男

キーワード：オーストラリア／ピゴット報告書／歴史博物館／地方博物館／現代史

1　序論

オーストラリアの博物館の種類やその歴史的な展開については、筆者自身が大まかな状況を明らかにしてきた。[1] しかし、従来の研究も筆者自身の研究も、とりわけ地方の歴史博物館については、その歴史的発展の様子を個別的、短期的、あるいは個人的経験から描写するものはあっても、それを体系的に分析しようとする試みは十分ではなかった。本稿は、こうした欠陥を、『ピゴット報告書』に基礎的資料を提供したコンサルタント・レポートを活用することで、可能な限り克服しようとする試みの一部である。『ピゴット報告書』とは、ピーター・ピゴットを委員長とするオーストラリア政府が任命した調査委員会によって、1975年に作成された全国的な博物館の調査報告書で、その後の博物館政策に決定的な影響を与えたとされているだけでなく、博物館の実態調査としては最大規模のものでもあった。[2]

最初にオーストラリアの地方博物館について、手短に説明しておきたい。1950年代末まで、オーストラリアの博物館の数は百を超えない程度であったが、『ピゴット報告書』が出版された頃には、その数は千を超えるようになった。そのほとんどが地方の小さな博物館であった。報告書は次のように述べている。「過去15年間、オーストラリア史への関心が高まった結果、何百もの小さな博物館が設立された。これは主として、草の根の運動、今世紀

のオーストラリアにおける最も活発で予想外の文化運動の一つである。」つまり 1960 年頃から 15 年の間にオーストラリア史に対する関心が高まったことを背景に、何百もの博物館が地方に設立され、都市部から毎年何十万という人びとが訪れるようになったというのである。[3)] 本稿の研究対象は、こうして設立され、拡大を続けた地方の歴史博物館である。2008 年に統計局が把握していた博物館の数は 1456 施設、そのうち社会史博物館と歴史的建築物などが 1193 施設で、そのなかには主要都市にある博物館も含まれていたが、1000 館程度は地方の歴史博物館であったと思われる。そのうえ統計局は、けっして網羅的に調査を行ったわけではなく、実際の博物館の数は 2000 とも 3000 とも言われており、その多くを小規模な歴史博物館が占めているのである。[4)]

こうした博物館に関しては、値札のない骨董店だという批判だけでなく、繰り返し担い手の老齢化と存続の危機が指摘されてきたが、全体としてその数は増加しており、多様化も進んでいる。[5)] 1975 年に大規模な調査が行われて以来、異口同音に指摘されてきた危機は、新しい担い手が生まれることで回避されてきたのであろうか。[6)] それとも、担い手を失った博物館が消える一方で、新たな博物館が生まれ、全体として拡大してきたのであろうか。単純な問いではあるが、誰も明確には答えられない疑問であり、本稿はこの問いに対してある程度の見通しを示したいと考えている。

『ピゴット報告書』を提出した委員会のメンバーは、報告書作成のために国内外の主要な博物館を自ら訪問したが、国内の小さな博物館に関するデータの収集は主に、5 人の専門家を特別にコンサルタントとして雇用し、100 以上の博物館に関して基礎的な個別の報告書を提出させることで行われた。その 5 人と担当地域は次のようになっている。D.J. ロビンソン（クィーンズランド南部の中央地域）、R.M. ギッブス（南オーストラリアのアデレイド周辺部）、マーク・リッチモンド（南オーストラリア南部とヴィクトリア西部）、フランク・ストローン（オールベリー＝ウォドンガ地域の周辺）、アン・ビックフォード（ニューサウスウェールズのバサーストとオレンジ周辺）。調査

者はいずれも博物館の展示や文献学の専門家で、都市部の大学や博物館に勤務していた人びとである。[7)]

本稿で用いる研究手法は、この5人が調査対象とした100あまりの博物館のうち、利用可能な事例について現在に至る変遷を確認することで、地方の歴史博物館の変化を一定の範囲で包括的に把握するというものである。5人の報告書はキャンベラの国立文書館で入手した。対象として選ばれた博物館は国全体を万遍に代表するようなサンプルとは言えないが、全国の博物館を調査しようとした歴史上唯一ともいえる委員会が選んだ調査対象であり、しかも当時の博物館全体の十分の一程度の大きなサンプルでもあることを考えると、そこから得られる結果は全体の傾向をかなりの程度まで反映していると考えても差し支えないだろう。1975年以降現在に至る状況については、博物館のホームページを中心に、各種の記事、パンフレット類、直接訪問した結果などを利用している。科学研究費を利用して、今後もできるだけ多くの博物館を訪問し、さらにデータの充実に努めるつもりである。しかし、本稿では、今後の研究の前提として、現在まで集めたデータに基づいて、研究が至る方向と暫定的な見通しを示したいと思う。[8)]

2　調査対象となった地方の歴史博物館の概要

5人のコンサルタントの報告書の内容は、濃淡さまざまであるばかりでなく、送付を約束していた資料が文書館のファイルのなかには見当たらないなど、当該の施設の描写はとうてい均一であるとは言えない。また、調査対象になった施設の規模も多様であるのみならず、コンサルタントが直接訪問した施設もあれば、その名前だけを記しているだけで内容がほとんどわからないものもある。歴史博物館のデータの検討を始める前に、その種類や内容からおおまかにデータを整理することから始めたい。その際規準とするのは、博物館の存続にとってもっとも重要な運営主体である。ただし、その例外として、大規模な屋外博物館を独自の項目として立てた。その理由は、ここで

対象とする一般的な地域の歴史博物館とは対照的に、娯楽と観光さらにはビジネスという側面が重視される施設であること、また、ピゴット委員会もこれを別のカテゴリーに属する施設として検討を加えているからである。以下5人のコンサルタントが担当した博物館の内訳を順に見ていく。[9)]

アン・ビックフォードは、10館を調査対象にしている。しかし、ほとんど関連する情報を残していないので、これら10館については1975年の状況を詳しく知ることはできない。その内訳は、地域の歴史協会が運営する博物館が6館、大規模な屋外博物館が2館、アングリカン教会付属の博物館が1館、おそらく地域の歴史協会が運営していたと思われるが内容がわからない施設が1館ある。

R.M. ギッブスも、同じく10館を調査対象にしているが、委員会が用意した調査票に基づいて、きわめて詳しい情報を提供している。その内訳は、地域の歴史協会が運営する博物館が4館、南オーストラリアのナショナル・トラストが運営するのが5館、個人が所有・運営する博物館が1館となっている。歴史協会が運営していた施設には、中央組織であるアデレイドの歴史協会と提携していない組織も含んでいる。ギッブスの調査地域は、アデレイドの周辺に限られているけれども、南オーストラリアでは比較的多くの博物館をナショナル・トラストが運営しているのが特徴となっている。その理由の一つとして、南オーストラリアの地方の町には、「インスティチュート」と呼ばれる、博物館や図書館や各種の文化活動と成人教育を行う施設が存在していたことがあげられる。インスティチュートは地域のアイデンティティの核としての役割を果たしており、歴史協会の必要性が強く意識されることが少なく、その発達が遅れたために、歴史協会と競合する活動領域を持つナショナル・トラストが入り込む余地が大きかったのではないかと思われる。ちなみに南オーストラリアでナショナル・トラストが設立されたのは1955年であるが、州全体を活動範囲とする南オーストラリア歴史協会が作られたのは1974年であった。設立直後からナショナル・トラストは地方支部の設立を推進し、その一部は既存の歴史好きの集団を基に形成されたといわれる。

現在も南オーストラリアでは、歴史的遺物の保存に関わる団体のなかでナショナル・トラストは最大の会員を有している。[10] 歴史協会とナショナル・トラストの関係は地域によって様々であるが、しばしば両者は特定の地域でメンバーや財源を巡って競合し、対立関係に陥った例も多かった。現在、インスティチュートは、一般的にスクール・オヴ・アーツと呼ばれる成人教育機関兼文化施設と同じように、ほとんど機能していない。[11]

マーク・リッチモンドは、54 か所を調査対象にしている。しかし、博物館のカテゴリーを広げて網羅的にリストアップしているので、明らかに博物館と呼べないような施設、博物館ではあっても美術作品だけの、文字通りの美術館は、本稿における検討対象から外すことにした。対象になるのは、地域の歴史協会が運営する博物館が 10 館（うち 1 施設は規模の小さい屋外博物館）、ナショナル・トラストが運営する 8 館、個人が所有・運営する博物館などの施設が 7 館。また、地方自治体などの公的団体が運営する施設が 3 施設（うち 1 施設は規模の小さい屋外博物館）、運営主体が明示されていないのが 6 施設である。以上の 34 施設を本稿の検討対象とする。検討対象から外す残りの 20 施設には、美術館、あまりにも情報不足で本稿の検討対象から外さざるをえないもの、訪問してみると実際には存在しなかった施設、博物館の名に値しないとされた施設などが含まれている。検討対象とする博物館の大部分については、委員会が用意した調査票に基づいて、リッチモンドがきわめて詳しい情報を提供している。

D.J. ロビンソンは、10 館を調査対象にしている。彼は委員会が用意した調査票に基づかずに情報を提供しているので、情報にはバラつきがある。その内訳は、地域の歴史協会が運営する博物館が 6 館、個人が所有もしくは運営する博物館が 4 館となっている。

フランク・ストローンは、30 館を調査対象にあげている。ストローンは、委員会が用意した調査票を利用しているので、包括的な情報を多くの博物館に関して得ることが可能である。その内訳は、地域の歴史協会が運営する博物館が 9 館、ナショナル・トラストが運営するのが 4 館、個人が所有・運営

する博物館などの施設が 7 館となっている。また、地方自治体などの公的団体が運営する施設が 4 施設、屋外博物館が 2 館ある。さらに運営主体が明示されていないのが 2 施設ある。その他の 2 館は内容がほとんどわからないので検討対象から除外する。ストローンの分担で検討の対象に残るのは 28 館である。

最後に、ピゴット調査委員会自体がわざわざ訪問した二つの屋外博物館、ソヴリン・ヒルとスワン・ヒルを加えて 94 館を本稿における検討対象とする。その内訳は、地域の歴史協会が運営する博物館が 35 館、ナショナル・トラストが運営するのが 17 館、個人が所有・運営する博物館などの施設が 19 館となっている。また、地方自治体などの公的団体が運営する施設が 7 館、大規模な屋外博物館が 6 館ある。この他、主に運営主体が不明なためにこの分類に入らない博物館が 10 館あり、これをその他とする。内訳を見ると、歴史協会、ナショナル・トラスト、地方自治体という、地方の博物館に関わる主要な団体が広くカバーされているだけでなく、個人の博物館についても十分なデータが含まれていることがわかる。また、それらが分布する地域は、クィーンズランド州の南部、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州と、オーストラリア全土をカバーしているわけではないが、多くの代表的な地方都市がある広範な地域に分布しており、オーストラリアの全体的な傾向をかなりの程度まで反映していると考えても差し支えないだろう。なお検討対象とした地方博物館の一覧表を本稿の末尾に添付した。[12)]

3　消えた博物館と残った博物館

検討対象にした 94 館のうち、どれくらいの博物館が現在も存在しているのか。運営主体別に見ていきたいと思う。存在しているか、していないかの規準は、実際に訪問して確認。ホームページ等で宣伝が行われている。観光案内やトリップ・アドヴァイザーなどのネットでの直近の紹介があるなど、

いずれかの媒体で活動が確認できると同時に、閉鎖を伝える記事などがないものを存在しているとする。また、まったく情報がない施設は、存在しない博物館として処理する。名称が変わったり、運営主体が変わったりしたものも存続しているとみなすことにする。ただし、コレクションの一部だけが引き継がれたような場合はここから除外している。

すでに述べたように地域の歴史協会が運営する博物館は 35 館あるが、そのすべてが現在も存在している。ただしそのうちの 2 館は運営主体が交替している。つまりオールベリーのタークス・ヘッド民俗博物館は、2007 年に図書館と合体して、ライブラリーミュージアムとして生まれ変わり、地方自治体によって運営されている。もう 1 館の旧製粉所博物館は、羊の背博物館と名前を変えて、1984 年からナラコートのナショナル・トラストにより管理運営されている。その継続が危ぶまれていた地方の歴史協会による博物館 36 館のすべてが、ピゴットらによる調査が行われてから 40 年経過しても存続しているというのは、驚くべきことだと言わざるをえない。しかも、基本的に運営主体も変わらずに持続している。

アン・ビックフォードは、コンサルタント・レポートで次のように述べている。

> 地方自治体に博物館を所属させれば、公式の所有権を確保できるだけでなく、地方のコミュニティに収蔵品を永続的に残すことができる。大部分の博物館の所蔵品は地域の歴史協会の所有物であった。もし収蔵品が他の場所に移されたり、協会が解散した場合、所蔵品の運命は定かではない。昨年、いくつかの地方の博物館の全所蔵物がシドニーのオークション・ルームズに売りに出された。現在のところ「植民地時代の」物品は人気があるので、こうした傾向は続くと思われる。[13)]

ビックフォードは、1974 年複数の歴史協会がその収蔵品をシドニーの競売場ですべて売りに出したと述べて（特定できない）、歴史協会による収蔵

品の所有の永続性に疑義を呈しているが、現実に36館の歴史協会の収蔵品が40年間に散逸した例は一例もない。多くの地方の博物館は、設備が整っていないために、収蔵品の質が劣化したり、十分にメインテナンスが行き届かない例はあるだろうが、収蔵品を「植民地時代の」物品は人気があるという理由で手放した例はないように思われる。構成員は高年齢で（したがって後継者が常に問題となる）、財政的にもけっして恵まれている団体ではないが、歴史的遺物の管理者としては、歴史協会が非常に信頼のおける団体であることは確認ができた。

40年間にわたって36館が存続してきた点は明確であるが、その活動のレベルはどうであろうか。活動状況の指標としては、開館の曜日と時間が一つの目安になるだろう。ほとんどがヴォランティアに運営を頼る地方の博物館は、開館できるかできないかは主に歴史協会のメンバーの活動に依存しており、開館時間が長いほど博物館を支える人々の活動も盛んであると考えられる。そこで1週間の平均開館時間を1975年と現在で比較することにする。

博物館の現在の開館状況については、ほとんどの博物館について正確に知ることができるが、1975年の状況は一部の博物館に関してしかわからない。両方の開館時間がわかる13館について、調べた結果を表-1に示した。13館のうちの9館で1週間当たりの開館時間は増加しており、減少したのは4館であった。また、1週間当たりの平均開館時間も9.7時間から19.0時間に2倍近くに増えている。いずれの結果も、1974-75年よりも2014-15年のほうが全体としては開館時間が長くなったことを明確に示している。[14] つまり地方の博物館を支えている歴史協会の活動は、1975年よりも現在のほうが活発化しているといっても差し支えないだろう。

表-1：　1週間の開館時間の増減（単位：時間）歴史協会の博物館

博物館名	1975年	2014年	
The Kapunda Historical Museum	3	21	増
The Saddleworth District Museum	3	2	減
The Barossa Valley Archives and Historical Trust Inc. Museum	27	30	増

Historical Centre (Warracknabeal)	17.5	12	減
Hamilton and Western District Historical Society	2	18	増
Langi Morgala Museum	9	21	増
The Allora and District Historical Society Historical Museum	3	2.5	減
Pringle Cottage Museum	31.5	7	減
The Stanthorpe and District Historical Society Museum	4	25	増
The Pittsworth Folk Museum	2	10	増
The Chinchilla Folk Museum	18	42	増
Turk's Head Folk Museum	6	51	増
Corowa/Federation Museum	0	6	増
平均	9.7	19.0	

歴史博物館の開館時間が長くなり、歴史協会の活動が活発になった理由としては、一つには連邦政府と州政府による補助金が拡大していることが指摘できる。補助金は特定の事業を対象としており、補助金を得た博物館の活動はそれをもとに拡大することが多いのである。また、州政府や州都にある歴史協会の統括団体などが、博物館運営に関するノウハウを伝授するプログラムを広く行うようになったことも重要である。1975年当時は完全なアマチュアに近かった歴史協会員の一部は、専門的な知識をある程度身につけるようになっており、博物館の運営にさらに積極的に関わるようになった。また、地方自治体の援助の拡大も重要である。歴史博物館は地方のアイデンティティの核としてだけではなく、観光の重要な資源として、ますます地方自治体の関心を引くようになり、博物館の建物が自治体によって買い取られて、それが無償で博物館を運営する歴史協会に貸し出されるような事例が増加した。あるいは建物の補修にも公的な資金が支出されるようになっている。こうした援助は歴史協会の活動の維持と活性化に貢献していると思われる。これらの施策はピゴット委員会が強調していた点で、報告書の指摘がある意味で有効に活かされたともいえるが、同時に報告書の主張は当時の関係者の最大公約数の意見でもあり、その後の政治的展開なども合わせて考えると、報告書があるなしに関わらず、現状に大きな違いがあったとも思われない。

続いてナショナル・トラストが運営する博物館 16 館について検討したい。16 館のうち 14 館は現在も明確に存在している。残る 2 館は、1 館は 1975 年の情報があまりに少ないために、違う場所に現存する博物館との継承関係がわからなかった。もう 1 館は、近年まで継続していることは確認できたが、ここ数年間の情報がなく、継続性を確認できなかった。こうした例外はあるけれども、ナショナル・トラストが運営する博物館についても、基本的に 40 年後も存在しており、歴史協会運営の博物館と同様に持続性という点では、ほとんど問題はないといえるだろう。ただし、おおむね地域単位で自律的に運営されている歴史協会の博物館と較べて、州都にある中央組織との結びつきと援助が潤沢な各地のナショナル・トラストの博物館は、持続性という面では優位な立場にあり、この結果は驚くべきことではない。

博物館の開館時間の推移を調べてみると、7 館で情報が得られた。表 -2 を参照してほしい。7 館のうち 5 館で開館時間が増加しているのに対し、2 館で減少している。平均の開館時間は、1975 年の 9.5 時間に対して、2014 年には 19.6 時間となっている。結果は、歴史協会の博物館ときわめて類似しているといえよう。サンプル数が少ないこともあり、開館時間の具体的な数値について論じても仕方がないと思われるが、歴史協会の博物館とほぼ同じ結論を導いたとしても、非合理ではないだろう。

ナショナル・トラストは基本的に一度取得した歴史的な建造物を手放すことはない。もし手放したとすれば、それはナショナル・トラストに財産を寄贈した人びと、その運営を支える人々への裏切りであって、組織の存在意義を揺るがすからだ。しかし、ここに興味深い例外がある。この点について少し紹介をしたい。その例外とは、エベニーザー・ミッション Ebenezer Mission の保存の例である。エベニーザー・ミッションは、ヴィクトリアのハインドマーシュ湖の近くに 1859 年に設立された、主に先住民ワーガイア Wergaia という言語集団に対する宣教のためのミッションである。プロテスタントのモラヴィア派のフリードリッヒ・ハゲナウア Friedrich Hagenauer が設立し、多くの歴史研究の対象となってきた。[15] 混血の先住民をミッショ

表-2： 1週間の開館時間の増減（単位：時間）ナショナル・トラスト

博物館名	1975年	2014年	
The Strathalbyn National Trust Museum	6	12.5	増
The Clare National Trust Museum	3	8	増
The Willunga Courthouse and Police Station	16	10	減
The Coromandel Valley and Districts Branch of National Trust Museum	2	0.5	減
The Gawler National Trust Museum	7	12	増
Beachport National Trust Museum	8	42	増
Millicent National Trust Museum	24.5	52	増
平均	9.5	19.6	

ンから追い出し同化させるというヴィクトリア州政府の政策の下、ミッションで暮らした先住民の反対にもかかわらず、1904年にミッションは廃止され、その土地の大部分は売却された。

1961年にナショナル・トラストは、ホーシャムの歴史協会からミッションの保存への協力を依頼された。当時、残存していた教会と墓地は地方自治体の管理下にあり、1971年に隣接地の土地をナショナル・トラストが寄贈されたことから、そこに残る台所や寄宿舎などの建物とともに一括して、このミッションをトラストが管理することになった。トラストは教会や建物の再建に取り組み、道路も整備したが、教会のある公有地は1991年にグーラム・グーラム・アボリジナル生活協同体 Goolum Goolum Aboriginal Co-op Ltd. に売却された。さらに2013年には、トラストが寄贈を受けた土地も、バレンジ・ガンジ土地評議会アボリジナル法人 Barengi Gadjin Land Council Aboriginal Corporation に返還された。ヴィクトリアのナショナル・トラストが寄贈を受けた不動産を手放すのはこれが初めてであり、先住民との和解を推進しようとする、現在のナショナル・トラストの姿勢の象徴だといえよう。こうした行為は、多くの博物館が推進してきた、収集した膨大な数の先住民の頭蓋骨や遺骨のアボリジナル・コミュニティへの返還という流れの一部としても位置付けられよう。[16)]

地方自治体などの公的団体が運営する施設7館を次に検討する。この7館には、厳密にいえば地方自治体が運営しているわけではないが、その補助金によって維持されていたり、州立博物館の分館が地方自治体の施設内で運営されているようなものも含んでいる。このうち存続しているのは4施設で、3施設は閉鎖されたり、他の目的に転用されている。1館だけで開館時間がわかっており、1975年45.5時間、2014年49時間となっている。例は多くはないが、地方自治体が運営主体として関わる博物館は、歴史協会やナショナル・トラストと較べて、持続可能性という点で明らかに劣っている。閉鎖された3館を見ると、1館は歴史的建造物でツーリスト・インフォメーション・センターであったところが酒場に変わっている。もう1館はオールベリー市の施設に設置された、州立の学芸科学博物館のオールベリー分館であったが、1982年に廃止されている。残る1館は、エタモウガー自然保護区Ettamogahに付属する博物館で、2012年に廃止されている。エタモウガーは、もとは傷ついた野生動物の保護施設として始まった場所であるが、1995年にオールベリー市に無償で譲渡され、運営されてきた施設である。市が財政的に支えることを停止したことが、閉館の主要な要因であった。この施設は個人所有から始まり、市民団体、さらに市へと所有権が移っている。したがって、個人が運営する博物館にも分類できるが、市が長期的に関与した施設なので、ここに分類した。[17)]

地方自治体による博物館の運営は、自治体の存在という外観のために、一見すると安定しているように思われる。しかし、実際は財政上の問題、為政者の関心の度合い、州政府や連邦政府の予算獲得への関心など、さまざまな要因に大きな影響を受けるために、必ずしも持続性を持つとはいえない。歴史協会の博物館のなかには、その展示施設を自治体所有の建物に依存している例が多く見られるが、その大部分は、歴史的建築物の最小限の費用での有効活用と観光振興という、地方自治体側のほとんど変化することのない要求と合致しており、安定した共存関係を築いている。自治体が運営するビーチワースのロバート・オハラ・バーク記念博物館の場合は、歴史的な町として

の観光振興政策を推進し、各種補助金を継続的に獲得する自治体が、博物館の積極的な活用を長年にわたって続けてきた事例である。現在この博物館は週 7 日 49 時間開館し、顕著な成功を収めている。しかしながら、多くの場合、自治体が運営する地方の博物館は、事業として成り立たないだけではなく、補助金獲得や観光の振興に失敗する例も多い。その結果、閉館に追い込まれる例も生まれてくるのである。

個人が運営する博物館の例は 19 ある。そのうち現在も存続しているものは 6 施設ある。そのうち 2 施設は市と州に運営者が移っている。この他不明が 2 館。残る 11 館は存在していないと思われる。予想されることではあるが、40 年の歳月は個人が一世代で維持し続けるには長すぎる期間で、世代の継承によって個人所有の博物館が維持される例は珍しいということになろう。個人が所有し続けている施設であっても、別の家族に所有権が移っている場合もある。マリー・ブリッジ博物館は自治体に寄贈されて継続が可能になった例であり、コブ・アンド・コウ・オーストラリア博物館は、定期馬車というオーストラリア内陸部を代表する歴史的遺物の価値が認められて、州立博物館の分館がこのコレクションを管理するようになり、現在も存続している。開館時間が確認できるのは、この二つの博物館だけで、それぞれ週 56 時間から 12 時間、週 22.5 時間から 42 時間となっている。個人所有のコレクションが一般に公開されて、博物館化される例は現在でも多く、個人の博物館は新陳代謝を繰り返している状況にある。そのうちのほんの一部だけが公的な運営主体に移行し、継続しているといえよう。

次にその他および不明の 10 館については、そのうち 4 館が博物館として存続し、もう 1 館は建物だけが残っている。残る 5 館は継続していないと思われる。現存する 4 館のうち 2 館は歴史協会が運営しており、おそらく歴史協会の運営が 1975 年から続いていたものと思われる。残る 2 施設のうち教会所有の施設は所有者が代わり、もう一つの施設は政府から個人に貸し出されて一般公開されている。

最後に 6 館の屋外博物館を検討したい。ビックフォードが報告した 2 館、

すなわちオールド・シドニータウンとラクラン・ヴィンテジ村は、巨大な屋外博物館で歴史的エンターテイメント施設であった。オールド・シドニータウンは、1975年に開業した、企業家と銀行、連邦政府の共同事業であり、後に州政府、企業家へと管理が移り、2003年に最終的に破たんした。入植当初のシドニーの町の様子をできるだけ忠実に再現しようとした意欲的な試みで、筆者も一度訪問したことがあるが、十分に堪能できた。ラクラン・ヴィンテジ村も1975年開設で、地方自治体がその開業を全面的に支援し、連邦政府と州政府も惜しみなく協力した。しかし、屋外博物館の運営は行き詰まり、1984年に個人に売却され、2004年に閉鎖された。[18)]

フランク・ストローンが検討している施設はいずれも、ヴィクトリア州のメルボルンの東方にある炭鉱の歴史をテーマとする屋外博物館である。いずれも現存している。コール・クリークのほうは、設立の経緯がコンサルタントの報告書からよくわかっているが、州政府と連邦政府の多額の補助金が開設の原資になっており、これを利用して地方自治体が管理してきた施設である。当初は入場料を取っていたが、現在は無料となっている。もう一つの州炭鉱公園は、しばらく閉鎖されていたが、現在は旧炭鉱内へのツアーが売り物になっている。ただし、現在に至る経緯については、今のところ詳しいことはわからない。

調査委員会が直接訪問した2施設は、いずれもヴィクトリア州にあり、現在も開館している。とりわけソヴリン・ヒルは、毎年50万人近くの入場者を集める、オーストラリア最大の屋外歴史博物館であると同時に、非営利団体が運営している優良なビジネスでもある。もう一つのスワン・ヒルは、オーストラリアで最も古い屋外歴史博物館といわれており、コミュニティのヴォランティア・グループの協力によって、現在まで続いている。規模が大きくなかったことが幸いしたともいえるだろう。1963年に歴史協会が外輪船のジェム号を購入し、それを公開したことに民俗博物館の起源がある。1970年に開業したソヴリン・ヒルはこれをモデルにしたといわれている。当初は、地方自治体のメンバーを中心とする公営の事業体によって所有・経

営されていたが、1990年代に所有権が自治体に移された。[19)]

大規模な屋外博物館は、連邦政府、州政府、地方自治体の強力な支援を受けることが多いが、事業としての規模が大きく、娯楽施設として十分な集客力を維持できなくなり、オールド・シドニータウンとラクラン・ヴィンテジ村のように破綻する場合もあり、小さな歴史博物館に較べて継続性に関して勝っているとは言えない。ヴィクトリアの炭鉱をテーマとする屋外博物館は存続しているが、事実上公園のようになっており、当初の目的からはかなり外れていると言えよう。ソヴリン・ヒルは、成功を収めているが、メルボルンから日帰りで行けるという立地とゴールドラッシュという魅力的なテーマに支えられた、きわめて特殊な例外である。これに対して、ヴォランティアを十分に活用し、施設の規模を最小に抑えたスワン・ヒルは、訪問者が少なくとも継続性を確保していけるという意味で、今後の地方の屋外博物館のあるべき一つのモデルを提供しているように思われる。

4　統計的検証―ヴィクトリア州を対象に

1992年にオーストラリア博物館協会のヴィクトリア支部による同州の博物館の包括的調査が行われている。この調査結果などを利用して、前節3において導いた推論などに矛盾がないかを検証すると同時に新しい事実を掘り起こすことで、地方博物館の歴史的発展の状況に肉づけをしたい。ヴィクトリアにある424の各種のミュージアムが調査対象になったが、ここでは本稿に関連する158の歴史協会を主な検討対象とする。[20)]

博物館の開設状況については、全ミュージアムを対象とする結果がグラフ化されている。それを見ると70年代には100館強、80年代には約120館、90年代の2年間で20館と新たなミュージアムが開業している。つまりミュージアムは全体として増加しているのである。実際、報告書は、直近の10年間でミュージアムが倍増していると推測している。[21)]

この結果を歴史協会だけについて見るために、同じ年の歴史関連団体のリ

ストを利用する。そこから博物館を持つと思われるヴィクトリアの歴史協会の設立年を調べると、1950 年以前 9 館、1960-64 が 14 館、1965-69 が 23 館、1970-74 が 17 館、1975-79 が 9 館、1980-84 が 14 館、1985-89 が 8 館、それ以降は 1 館（1990 年代初頭までしか調査はない）となっている。[22] これを見ると、ピゴット委員会が行った調査以降も、ペースはそれ以前の 15 年間よりも落ちてはいるが、新しい歴史協会が生まれ、新たに地方博物館が建設されていることは明らかである。さらに 2000 年の調査によると、歴史協会の平均設立年は 1973 年になっており、この推論に合致する。[23] 注意しなければならないのは、設立年が歴史協会のもので、歴史協会が運営する博物館のものではない点である。博物館の設立は歴史協会の設立よりも通常遅れるので、博物館の設立年は当然ながら後ろにずれる。つまり 1975 年以降に上記の数字よりも、もっと多くの博物館が設立されていると考えられる。これまで見てきたように、歴史協会の博物館はいったん設立されると、その後閉館されることはほとんどないので、新たに設立された博物館の数だけ、歴史協会が運営する博物館は増えたことになる。

歴史協会の博物館には顕著な特徴がある。それは、その 93 %がヴォランティアだけで運営されているという点である。ミュージアムの 74 %が何らかのヴォランティアの助力を得ているが、ヴォランティアだけで運営されている施設は 24 %にすぎない。こうしたヴォランティアの数は直近の 10 年間で 3 倍近くに増えていると推計されている。ヴォランティアの増加は、主にヴォランティアで維持されている歴史博物館の活動をおそらく活性化したと思われる。これは前節で開館時間の増加という面からとらえた結果と一致している。歴史協会の運営する博物館は、その総数が増えただけではなく、その多くで、ヴォランティアで活躍するメンバーが増加したことで、より長時間にわたって博物館を開館できるようになったのである。

1992 年の調査が「ヴォランティア労働者の平均年齢はわからないが、経験からすると、これらのヴォランティアは退職者の年齢層からきていると思われる。ヴォランティアが運営する多くの博物館では、新たに若いメンバー

を集めることがますます困難になっている。この問題は解決しなければならない」[24] と述べていることからも明らかなように、歴史博物館を支えるヴォランティアの高齢化は重大な課題だと認識されてきたが、少なくともここ40年くらいの間は、より多くの老人を新たにメンバーとして加えることで、博物館は活動を拡大してきたのである。

歴史協会の博物館の77％は、ヴォランティアのおかげで、その運営費用が5000ドル（1992年の成人1人10週間の賃金を少し下回るくらい）以下に収まっている。また、その収入源は、州政府6％、地方自治体12％、自己資金（入館料等）64％となっており、少ない運営費用を主に自己資金でまかなっていることがわかる。その基盤が脆弱に見えても、こうした地方の博物館は、運営費用を最小限に抑えて、それを入館料や各種の行事や手数料などの自己資金や寄付などで賄うことで、安定した存続基盤を維持しているのである。[25]

さらに地方自治体の協力も重要な要素である。歴史協会の多くは博物館を維持する能力はあっても、展示品を所蔵する施設を確保する資力がない。地方自治体は、歴史的建築物や庁舎の一部を無償で提供したり、固定資産税や電気・水道代を免除したりすることで、歴史協会による博物館の運営に協力し、その存続に一役買っている。展示施設は確保されているので、ヴォランティアの数が不足するようになると、開館時間を短くする、つまり一種の冬眠状態になることで、生き残っている博物館もある。[26]

地方の歴史博物館は、確かに一般的に規模は小さい。しかし、それは所蔵品の点数が少ないことを意味するわけではない。歴史博物館は所蔵品の点数では他のミュージアムの平均を上回っており、その管理の困難さは容易に想像できる。[27] 近年、コレクションのカタログ化が地方の博物館で著しく進展しているが、これには、政府による補助プログラムの導入とともに、コンピューターの導入が大きく貢献している。またコンピューターを扱える高齢者が増えたことも重要である。つまり技術革新は、値札のない骨董屋の改善にも貢献し、それがその維持にも役立っている。2000年の調査によると約

半数の歴史協会がコンピューターを導入している。調査責任者はIT化の遅れを指摘しているが、主要な歴史協会には普及している状況は、大きな進歩だといえよう。[28)]

5　結論

オーストラリアの地方の歴史博物館は、1950年代末から急激に増加し、『ピゴット報告書』が出版された1975年には、1000館以上に達し、「今世紀のオーストラリアにおける最も活発で予想外の文化運動」とさえ呼ばれるようになった。その後もその数は増加し、現在では総数が2000館とも3000館ともいわれている。こうした大規模な活動に関して、多くの研究は個別的・印象的なレベルにとどまり、その実態の長期的・体系的な分析が十分ではなかった。本稿は、『ピゴット報告書』のもとになったコンサルタントのレポートを利用して、そこに現れる94館の経年的変化を検証し、その結果をヴィクトリア州の博物館の総合調査などと較べながら、歴史的な全体像を描こうとした。地方の歴史博物館の最大の担い手は歴史協会であり、ナショナル・トラスト、地方自治体などがこれに次いで重要である。こうした博物館の維持と発展にとって、歴史協会の「老齢化し、減少する参加者」が常に問題とされてきたが、歴史協会の博物館は、閉館することは極めてまれで、長期にわたって安定的に維持されており、新しい歴史協会の設立にともなって、博物館数も増加してきた。その背景には、ヴォランティアの活用によって運営費用を最小限におさえ、それを自己資金で賄ってきたという土台があった。老齢化という問題は、老人から老人へという老・老の世代交代によって回避された。多くの歴史協会はメンバーの数を維持し、しかも活動のレベルも向上させてきた。さらに、地方自治体による施設の貸与やIT化の進展も歴史協会の博物館にとっては有利に働いている。[29)]

ナショナル・トラストの博物館は、その強固な組織的・財政的基盤から安定した運営が予想されるが、検証の結果もその通りであった。ただし例外的

に先住民への施設の返還が見られた。地方自治体が運営する博物館は、組織的基盤に関しては安定しているように思われるが、政治的な変化や財政上の問題から、40年のスパンを取ると現実に閉館されるものも多かった。これは地方自治体が深く関与し、連邦政府・州政府から多額の財政的援助を受けた大規模な屋外博物館についてもいえることである。こうした大規模施設は、運営費用も巨額で、経営危機にも陥りやすく、安定した基盤を持たないといえる。このほか、個人が所有する博物館はかなり大きな割合を占めるが、40年というタイムスパンを取ると、その多くが閉鎖されている。しかし、現在も個人のコレクションが博物館として公開されている例は多く、生まれては消えていく、新陳代謝を繰り返しているといえよう。

以上、調査結果を簡単にまとめたが、一番大きな発見は、歴史協会が運営する典型的な地方の博物館の強固な持続力である。高齢化と世代交代が組織としての課題として長年指摘し続けられてきたにもかかわらず、高齢化した組織をそのままで、高齢者から高齢者への世代交代を行ない、組織としてのヴァイタリティを維持し、さらに発展してきたのは、超高齢化社会を迎える私たちにとっても、「若者の参加者を増やすことが唯一の方法ではない」という一つの良い教訓だと思われる。

※本研究はJSPS科研費26360010の助成を受けたものです。

［注］

1） 以下を参照：藤川隆男「オーストラリアにおける歴史戦争後の歴史博物館―クィーンズランド州における調査から」、『パブリック・ヒストリー』第10号、2013年、15-33頁；藤川隆男「オーストラリアにおける歴史博物館の発達とポストモダニティ―国立博物館 / 歴史戦争 / 地方博物館」、『西洋史学』249号、2013年、1-19頁。

2） *Museums in Australia 1975: Report of the Committee of Inquiry on Museums and National Collections including the Report of the Planning Committee on the Gallery of*

Aboriginal Australia, Canberra: Australian Government Publishing Service, 1975（以下では Pigott Report と略す）；報告書の内容については、前掲『西洋史学』の論文を参照。

3） Pigott Report, p.21.

4） Australian Bureau of Statistics, 'Museums, Australia 2007-08' (cat. no. 8560.0); P. M. Ryan Paper No.7, p.1 in 'Report of the Committee-outlines and materials' (NAA: A7461, 75/15 Part 1) も参照。

5） Winkworth, Kylie, 'Let a thousand flowers bloom: museums in regional Australia', in Des Griffin and Leon Paroissien, eds., *Understanding Museums: Australian museums and museology*, National Museum of Australia, 2011, published online at http://nma.gov.au/research/understanding-museums/_lib/pdf/Understanding_Museums_whole_2011.pdf.（2015/06/01 確認）を参照。

6） 「疑いなく、地方の町にある多くの小さな博物館はこれからの 20 年で朽ちるであろう」（Pigott Report, p.24）など、コメンテイターはいつも悲観的な予想をしてきたが、その予想は外れて、現在まで小さな博物館は増え続けている。詳しくは、前掲 P. M. Ryan Paper No.7, p.2 を参照。

7） Pigott Report, p.21; 5 人は提出した個別の報告書で、それぞれの意見を述べているが、5 人の意見はおおむね一致しており、『ピゴット報告書』に反映されている。個別の報告書の分析については、Condé, Anne-Marie, 'A "vigorous cultural movement" The Pigott inquiry and country museums in Australia, 1975', *reCollections*, *Vol.6*, No.2, 2011, on line at http://recollections.nma.gov.au/issues（2015/06/01 確認）を参照。なお、地名や人名で原語が記載していない場合があるが、その表記については私が運営しているオーストラリア辞典 http://www.let.osaka-u.ac.jp/seiyousi/bun45dict/dict.html を参照してほしい。

8） 利用した古文書館の資料は'Consultant Report-Frank Strahan' (NAA: A7661, 75/79), 'Consultant Report-Anne Bickford' (NAA: A7461, 75/77), 'Consultant Report-R. M. Gibbs' (NAA: A7461, 75/81), 'Consultant Report-Mark Richmond' (NAA: A7461, 75/76), 'Consultant Report-Doctor Daniel J. Robinson' (NAA: A7461, 75/80) を中心としたものである。

9） 『ピゴット報告書』に関連する資料には、まだ公開の許諾がなされていない文書も多く含まれており、関連するデータがどこかに紛れ込んでいる可能性があるが、公開の許可が下りるまでには時間が必要で、短期の滞在では手が付けられなかった。

10） Marsden, Susan, 'History in the South: the Development of Historical Societies in South Australia', in Roberts, Alan ed., *Grassroots history : Proceedings of the Joint Conference of the Federation of Australian Historical Societies and the Royal Historical Society of Victoria in Melbourne*, Canberra: the Federation of Australian Historical

Societies, 1991, pp.45-49; Ashton, Paul and Paula Hamilton, *History at the Crossroads: Australians and the Past,* Ultimo NSW: Halstead Press, 2010, pp.35-43.

11）藤川、前掲『西洋史学』の論文、15-17頁参照。

12）藤川、前掲『パブリック・ヒストリー』の論文では、クィーンズランド北部と中央部の地方博物館を取り上げた。

13）'Consultant Report-Anne Bickford', p.17.

14）実際の調査時期には幅があり、それぞれ1974-75年と2014-15年とするほうが正確ではあるが、他の部分では1975年と2014年と略記している。

15）Clark, Ian, 'Reviewed Work: *Fantastic Dreaming: the Archaeology of an Aboriginal Mission* by Jane Lydon', *Aboriginal History*, Vol.34, 2010, pp.299-301に、主要な研究が手短にまとめられている。Jensz, Felicity, *German Moravian Missionaries in the British Colony of Victoria, Australia, 1848–1908: Influential Strangers*, (Studies in Christian Mission 38), Leiden: Brill, 2010も参照。

16）返還の経緯については、オーストラリアのナショナル・トラストのサイト http://www.nationaltrust.org.au/vic/EbenezerMissionProjectを参照。返還の様子は次の画像、https://www.youtube.com/watch?v=ckifUAkOn_kを参照（両方とも2015/06/02確認）。2015年8月に訪れたときには整備のために施設は閉鎖されていた。

17）*The Border Mail*, 31 May 2012, 'Extinct: Ettamogah sanctuary closes', http://www.bordermail.com.au/story/34730/extinct-ettamogah-sanctuary-closes/（2015/06/03確認）。

18）オールド・シドニータウンについては、次のブログ、History Services Blog, http:// historyservicesnswblog.blogspot.jp/2014/03/old-sydney-town-memories.html（2015/06/02確認）を参照すると概要がよくわかる；ラクラン・ヴィンテジ村に関しては、そのサイト http://lachlanvintagevillage.com.au/Content/Past.html（2015/06/02確認）を参照。

19）Swan Hill Pioneer Settlement Act 1974（http://www.austlii.edu.au/au/legis/vic/hist_act/shpsa1974309/）やSwan Hill Pioneer Settlement Authority (Repeal) Act 1994（http: //www.austlii.edu.au/au/legis/vic/consol_act/shpsaa1994488/）を参照。また、Condé, Anne-Marie, 'The Pigott inquiry and country museums in Australia', National Museum of Australia, 13 October 2010, Audio on demand transcript（http://www.nma.gov.au/audio/transcripts/NMA_Pigott_inquiry_20101013.html）も屋外博物館について詳しい。

20）Freeman, Kirsten, *1992 Victorian Museum Survey Report*, South Melbourne: the Museum Association of Australia Inc., 1993; もう一つの主要な担い手のナショナル・トラストや個人の歴史博物館は、統計的なカテゴリーとしては現れてこない。

21）Ibid., pp.4-5.

22）*Into History: A Guide to Historical, Genealogical, Family History and Heritage*

Societies, Groups and Organizations in Australia compiled by Ralph and Amy Reid, 3rd ed., 1992; ここで集めた歴史協会は 95 例で、上記の調査による 158 に満たないが、その原因は明確に博物館を運営していると記述がある協会だけを取り上げたからである。

23） William Tyler, *Survey 2000 a snapshot of the state of the community history movement in 2000 /prepared for the executive of FAHS,* Canberra, 2000, p.8.

24） Freeman, op.cit., p.9.

25） Freeman, op.cit., p.24, pp.29-30.

26） Freeman, op.cit., p.35.

27） Freeman, op.cit., p.40.

28） Tyler, op.cit., Part B question 15a.

29） See Ashton, op.cit., p.42.

資料：博物館一覧（注８の資料などをもとに作成）

博物館の名称	場所	運営者
（アン・ビックフォード）		
Bathurst District Historical Society Museum	NSW	歴史協会
The Bathurst Gold Diggings Mining Museum	NSW	教会付属
Golden Memories Museum	NSW	歴史協会
The Henry Parkes Historical Museum	NSW	歴史協会
Pioneer Museum Park	NSW	歴史協会
Forbes Historical Museum	NSW	歴史協会
Eugowra Historical Museum	NSW	個人→地方公共団体
Canowindra and District Historical Society Museum	NSW	歴史協会
The Lachlan Vintage Village	NSW	大規模屋外博物館
Old Sydney Town	NSW	大規模屋外博物館
（R.M. ギッブス）		
The Kapunda Historical Museum	南オーストラリア	歴史協会
The Saddleworth District Museum	南オーストラリア	歴史協会
The Murray Bridge Museum	南オーストラリア	個人
The Strathalbyn National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
The Barossa Valley Archives and Historical Trust Inc. Museum	南オーストラリア	歴史協会

博物館の名称	場所	運営者
The Lobethal Archives and Historical Museum	南オーストラリア	歴史協会
The Clare National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
The Willunga Courthouse and Police Station	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
The Coromandel Valley and Districts Branch of National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
The Gawler National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
（マーク・リッチモンド）		
Beachport National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Victoriana Museum	南オーストラリア	個人
Millicent National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Black's Museum	南オーストラリア	個人
Naracoorte National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Naracoorte Old Mill Museum	南オーストラリア	歴史協会
Penola Adams Museum	南オーストラリア	不明
Dingley Dell	南オーストラリア	不明
Warrock	ヴィクトリア	個人
Bower Bird's Nest Museum	ヴィクトリア	個人
Wimmera-Mallee Pioneers' Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Kaniva Historical Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Natimuk Historical Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Kurtze's Museum	ヴィクトリア	不明
Tourist Information Centre	ヴィクトリア	地方公共団体
Caledonian Inn	ヴィクトリア	個人
Historical Centre（Warracknabeal）	ヴィクトリア	歴史協会
North Western Agricultural Machinery Museum	ヴィクトリア	不明
Bordertown National Trust museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Mundulla National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Naracoorte Mission and Museum	南オーストラリア	不明
Natimuk Historical Museum	南オーストラリア	不明
Casterton Museum	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト
Hamilton and Western District Historical Society	ヴィクトリア	歴史協会
Horsham Historical Society Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Nhill Historical Society Collection	ヴィクトリア	歴史協会

博物館の名称	場所	運営者
Warrnambool Historical Society	ヴィクトリア	歴史協会
Tower Hill Natural History Centre	ヴィクトリア	地方公共団体
Kingston S.E. National Trust Museum	南オーストラリア	ナショナル・トラスト
Millicent Shell Garden	南オーストラリア	個人
Ebenezer Mission Station	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト
Langi Morgala Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Antique Lamp Museum	ヴィクトリア	個人
Yurunga Homestead	ヴィクトリア	地方公共団体
（D.J. ロビンソン）		
Cobb & Co Australian Museum and Garden of History	クィーンズランド	個人
Early Settlers Museum	クィーンズランド	個人
The Allora and District Historical Society Museum	クィーンズランド	歴史協会
Pringle Cottage Museum	クィーンズランド	歴史協会
The Stanthorpe and District Historical Society Museum	クィーンズランド	歴史協会
The Pittsworth Folk Museum	クィーンズランド	歴史協会
The Lindenberg Vintage Car Collection	クィーンズランド	個人
The Chinchilla Folk Museum	クィーンズランド	歴史協会
The Miles and District Museum	クィーンズランド	歴史協会
The Dalby Historical and Gem Museum	クィーンズランド	個人
（フランク・ストローン）		
Brian McGrath private collection	NSW	個人
Arts and Sciences Museum, Albury Branch	NSW	地方公共団体
Noel's Rock Museum	NSW	個人
Turk's Head Folk Museum	NSW	歴史協会
Corowa/Federation Museum	NSW	歴史協会
The Ettamogah Sanctuary, incorporating the Ettamogah Nature Education Centre and Museum	NSW	地方公共団体
Holbrook/Woolpack Inn Museum	NSW	歴史協会
Jindera/Wagner's Store Pioneer Museum and Historical Society	NSW	歴史協会
Walla Walla/Avalon Tourist Farm	NSW	個人
Beechworth/Carriage and Harness Museum	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト

博物館の名称	場所	運営者
Powder Magazine	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト
Robert O'Hara Burke Memorial Museum	ヴィクトリア	地方公共団体
The Rock Cavern	ヴィクトリア	個人
Benalla/Kelly Museum	ヴィクトリア	不明
Chiltern Athenaeum	ヴィクトリア	地方公共団体
Federal Standard Printing Office	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト
Grape Vine Antiques	ヴィクトリア	個人
Lake View	ヴィクトリア	ナショナル・トラスト
Corryong/Man from Snowy River Folk Museum	ヴィクトリア	歴史協会
El Dorado Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Wodonga/Drage's Historical Aircraft Museum	ヴィクトリア	個人
Yackandandah/Bank of Victoria Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Korumburra/Coal Creek Historical Park	ヴィクトリア	地方公共団体
Wonthaggi/Coal Mine and Nature Park Development	ヴィクトリア	地方公共団体
Benalla Historical Society Museum	ヴィクトリア	歴史協会
Dora Dora Hotel	NSW	個人
Lockhardt/Green's Gunyah Museum and Cottage Shoppe	NSW	不明
Wandiligong Preservation Society	ヴィクトリア	歴史協会
（委員会）		
Sovereign Hill	ヴィクトリア	大規模屋外博物館
Swan Hill Pioneer Settlement	ヴィクトリア	大規模屋外博物館

（文学研究科教授）

SUMMARY

Development of Local History Museums in Australia:
An Analysis of 94 Museums

Takao Fujikawa

Local history museums have rapidly increased in Australia since the late 1950s. They were over 1000 when the Pigott Report was published in 1975. The Report regarded them as "a grass-roots movement, one of the most unexpected and vigorous cultural movements in Australia this century". The number of them continued to increase and now it was said to be over 3000. However, most studies of local museums remained impressionistic or case studies without depth of time. The author attempts to analyze 94 museums discussed by five consultants under the Pigott Committee over the span of 40 years.

The most important organizations that run local museums are history societies, followed by the National Trusts and local governments. Historical societies are said to be faced with an aging and declining membership and that issue needs to be fixed. Nevertheless, they have been extremely resilient institutions which have not only opened new museums, but also expanded their activities in different aspects. 93% of historical societies were totally dependent upon volunteers in the early 1990s and this made it possible for many of them (74%) to manage their museums under $5000 per year. Historical societies have also been maintaining their activities by replacing aged members with newly acquired aged members. Volunteer labour and cheap managing costs were the pillars for historical societies. The National Trusts are, as might be expected, similarly resilient institutions with a solid foundation of capital and central organizations.

Museums supported by local governments are less stable institutions. Although they seem to have a stable organizational and financial basis, many of them were closed because of political and financial considerations. Open air museums have similar characteristics. They tend to be closed down more frequently than smaller local museums in spite of or due to their use of large amount of Federal and State grants as well as assistance from local government.